小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	豊立会	代表者	鈴木　俊孝
事業所名	まんざきの家玲光苑	管理者	鈴木　俊孝

法人・事業所の特徴	日々笑顔にあふれたアットホームな雰囲気の施設です。通いであっても自宅へ送ったら支援が終わりではなく、24時間ご利用者様の状況を把握して、必要な介護が出来るように支援しております。また、宿泊や訪問の支援も顔なじみの職員が支援しており、関係も深まり安心へと繋がっています。またご家族様と、情報を共有することでご利用者様の最適な支援へと繋げ、季節に合わせたイベントや外出行事も多く楽しみのある施設となっています。ご利用者様からの意見を取り入れ、活動に活かし、一人ひとりに合わせた日常生活動作の向上が図れるように支援をしております。朝の訪問支援や夕食を食べてからの送迎、急な宿泊の対応など可能な限り柔軟に対応して、独居の方の支援や、ご家族様の介護負担の軽減を図れるように努めております。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	5人	1人	人	人	1人	人	4人	人	11人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	昨年までは研修や会議の開催が感染予防の影響を受け実施が難しい状況だったが、次年度は事業所内の会議を再開させ、職員同士の意見交換を活発に行うことでサービスの質の向上につなげる。	本年度は研修会はコロナの関係で書面となってしまったが、現在は外部研修へも徐々に参加しています。そして、小規模会議も職員が集まっての開催が行えており、職員との意見交換も行えている。ご利用者様の日々の様子について情報の共有をし、把握に努めながら行えていた。		・本年度は職員の外部研修への参加と職員参加しての小規模会議内での研修会も開催する。そして、研修参加による知識・技術の向上を図ること、また小規模会議にて職員間の意見交換を行うことにより、より質の高いサービスの向上につなげて行く。
B．事業所のしつらえ・環境	事業所敷地内や周辺の環境整備を担当チームを中心にして季節ごとに実施する。また、館内の換気・消毒を実施し、実施の記録をもとに検証を行いコロナ感染防止に取り組んでいく。	事業所内の環境整備については、担当職員にて不定期になってしまったが、花壇の整備等を行うことが出来綺麗に維持されていた。コロナについては、職員の感染も確認されたが、日々の感染防止の取り組みにより、感染が拡大することなく収束することが出来た。		・事業所敷地内や周辺の環境整備を月予定にて実施日を決定して行い、事業所の敷地内の環境整備を進める。
C．事業所と地域のかかわり	再開し始めている地域行事へ積極的に参加し、地域の方々と関わりを持ち施設の情報発信の機会とする。	毎月発行のまんざきの家広報誌を地域に配布、又ホームページにて普段の様子や活動報告を行っている。地域行事にも職員のみであるが参加させて頂いている。		・地域行事へ職員又ご利用者の可能な範囲で参加することで、地域の方々と更なる関わりを持ち施設の情報発信の機会とする。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	通いや訪問サービス提供の際に、ご家族や近隣住民の方々と関わりを持ちご本人の困りごとの把握や情報収集の場としていく。	地域の方に協力して頂き、お祭りでは沢山の地域の方が声を掛けて下さりまんざきの家を認知して頂くことが出来た。そして、近隣住民の方又はご利用者と話す機会も頂き貴重なお話も伺うことが出来た。		通いや訪問サービス提供の際に、ご家族や近隣住民の方々と関わりを持ちご本人の困りごとの把握や情報収集の場としていく。 そして、包括支援センター又市町村と活発に情報を共有していく。
E．運営推進会議を活かした取組み	次年度の運営推進会議については、感染防止対策のもとで集合して対面会議の再開を目指します。そして、委員の方々に施設をご覧いただきご意見を伺い施設運営に活かしていく。	本年度は対面会議で再開しております。そして営推進会議を通し、委員の方からの貴重なアドバイス又沢山のありがたい言葉を頂くことが出来た。		・運営推進会議については、感染防止対策のもとで集合して対面会議の再開、そして、委員の方々に施設をご覧いただきご意見を伺い施設運営に活かしていく。
F．事業所の防災・災害対策	計画にまとめている災害についての事業継続計画に沿って、地域の方々と協同した防災訓練を実施する。	地域にお住いの方や、近隣学校の先生、消防団、消防署の方協力のもと、防災訓練の実施ができた。実際の避難経路を一緒に確認しながら、施設内の把握もして頂いた。		・事業継続計画に沿って、地域の方々と協同した防災訓練を実施する。